

魅力ある学校図書館をめざして

新温泉町立浜坂南小学校 寺谷 優香

1 はじめに

本校は、各学年1学級、特別支援学級2学級、児童数69名の小規模校である。

本校では、「本に親しみ、楽しんで読書をしようとする児童を育成するため、学習の場としてふさわしく、心安らぐ環境となるような魅力ある図書室づくりを進める」ことをねらいとしている。児童を対象に、読書と図書室の環境についてのアンケートを実施したところ、読書の楽しさや大切さを感じている児童が多いことが分かった。一方で、利用頻度の個人差を改善していくことや蔵書の充実を図っていく必要性を感じた。魅力ある図書室をめざして、次のような取り組みを行っている。

2 具体的な取り組み

(1) 図書委員会による貸し出し

日時・・・月・水・木・金の朝休み（8：00～8：08）

火・金の昼休み（13：00～13：15）

(2) 読書カードの活用

貸出・返却の日付、書名以外に「本のある場所」「感想」を記入する。読書の記録の役割も果たしており、1年間の読書活動をふりかえることができる。

(3) 朝読書の時間

8：10～8：20を「朝読書」の時間とし、全校で取り組んでいる。貸し出し時間内に本を借り、静かに読書を始めるという流れが習慣となっている。

(4) 図書委員・地域ボランティア「紙風船」による読み聞かせ

毎月第2・4木曜日の朝読書の時間に行っている。

1～3年生と4～6年生を交互に担当している。

図書委員は、図書室から本を選び、委員会担当の教師と一緒に読み聞かせの練習をして臨んでいる。



(5) 教師による読み聞かせ

毎月第3木曜日の朝読書の時間に行っている。図書室の本や自身が所有している本以外に、公共図書館の司書の方に勧めていただいた本の中から選んでいる。担任ではない先生の読み聞かせとあって、児童も楽しみにしている。

(6) 読書月間

各学期に1か月間の読書月間を設け、それぞれの学年の目標冊数・ページ数を達成した児童に「読書賞」を、全員が達成した学級には「学級読書賞」を出し、全校朝会で表彰をしている。どの学年も積極的に読書に励んでおり、図書室に毎日通う姿や、わずかな時間でも本を開いて読んでいる姿が見られた。次の学期は、さらに目標冊数・ページ数を増やして取り組んでいる。

<各学年の目標>

1年生・・・20冊　2年生・・・20冊　3年生・・・600ページ以上
4年生・・・800ページ以上　5年生・・・1000ページ以上　6年生・・・1000ページ以上

(7) 選書について

職員だけでなく、全校児童にもアンケートで希望を聞き、検討後、図書を購入している。

(8) 配架の工夫

○新刊コーナー・・・いつ、どんな本が入ったのかが分かるように写真を掲示している。

○おすすめ本コーナー・・・長期休業中の貸し出しにあわせて、図書委員がおすすめの本を選び、紹介をしている。

○国語の教科書で紹介されている本の棚の設置

(9) 各教科等における図書の活用例

各学年の学習内容に応じて、調べ学習や関連図書として活用している。

【1年生】国語「くちばし」・・・鳥の図鑑

【2年生】国語「スイミー」・・・レオ・レオニ作「スイミー」「フレデリック」等

【3年生】総合「環境体験学習」・・・水の生物・魚の図鑑

【4年生】社会「わたしたちの県」・・・47都道府県・兵庫県に関する本、郷土資料

【5年生】総合「米作り体験」・・・稲作・米に関する本

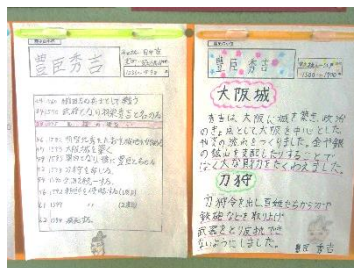
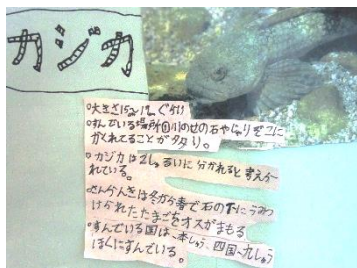
国語「本の帯作り」・・・図書室の本全般

【6年生】国語「季節の言葉」・・・俳句の本、子ども歳時記

社会「歴史のまとめ」・・・日本の歴史に関する本

総合「平和学習」・・・平和学習に関する本、物語、絵本

※学級文庫の充実・・・各学年に応じて、学習で使える本、物語の本を置いている。



3 成果と課題

○新刊コーナーの本や図書委員おすすめの本に興味を持ち、利用する児童が多かった。

○児童がどのような本に興味を持っているかが分かり、その希望を選書に活かすことができた。

○調べ学習を中心に、各教科等において図書を活用し、学習を深めることができた。

▲「どこに」「どんな本があるか」がより分かりやすいように、本の整理や配架を工夫していく。

▲蔵書の管理方法や、学習活動を支援する働きを高めていくための取り組みを検討していく。

▲図書室を利用しない児童に働きかけると共に、足を運びたくなるような環境整備をしていく。

4 おわりに

読書は心の栄養となり、考える力の源となる。本との出会いや、子どもたちの「本が好き」「もっといろんな本を読みたい」という思いを大切に、様々な実践を参考にしたり情報を収集したりしながら、より利用しやすい魅力ある図書室作りに努めていきたい。

『本に親しむ場としての図書館づくり』

養父市立宿南小学校 安井 亜矢加

1 はじめに

本校は、5クラス（複式学級含む）、知的特別支援学級1クラス、児童数36名の小規模校である。

養父市は、「そうあんくんの日」（ノーゲーム・ノーテレビ・読書の日）を設定し、家庭読書や親子読書など、読書の推進に力を入れている。また、養父市の図書館担当で、学年ごとに「おすすめ20冊」を選書した。本校では、その取組を受けて、児童がより本に親しむことができるように工夫・改善してきた。

課題としては、読書量の個人差が大きいことや絵本から読み物への移行ができなかったり、学習漫画ばかりを読んでしまったりすることが挙げられる。

そこで、子どもたちを本に親しませ、読書の楽しさを実感させることをねらいとして、以下に取組を紹介する。

2 具体的な取り組み

(1) チャレンジ50

養父市の図書担当で選書した「おすすめ20冊」に加え、自分で選んだ30冊を読むことができた児童は、学校長から表彰される。また児童は、校長室にてお気に入りの一冊を自分の言葉で紹介する。1学期ですでに50冊を超えている児童が、8人いる。全児童の22.2%である。

（内訳は、1年生2人、2年生3人、4年生3人である。）

○「おすすめ20冊」の推進

・一学期は「おすすめ20冊」からまず読んでいくように指導した。また、「そうあんくんの日」にも、同様に指導した。

・「おすすめ20冊」のコーナーの設置

児童の目にとまりやすく、手に取りやすいように、図書室の入り口近くの本棚に「おすすめ20冊」のコーナーを学年ごとに設置した。

・チェックカードの作成

おすすめ20冊がすべて読めるように、チェックカードを作成し、読んだ日付を書くようにした。読めた児童には、がんばりシールを渡した。



学年	書名	著者	読み終えた日	読んだ日
1年生	1. 1冊目	著者		
1年生	2. 2冊目	著者		
1年生	3. 3冊目	著者		
1年生	4. 4冊目	著者		
1年生	5. 5冊目	著者		
1年生	6. 6冊目	著者		
1年生	7. 7冊目	著者		
1年生	8. 8冊目	著者		
1年生	9. 9冊目	著者		
1年生	10. 10冊目	著者		
1年生	11. 11冊目	著者		
1年生	12. 12冊目	著者		
1年生	13. 13冊目	著者		
1年生	14. 14冊目	著者		
1年生	15. 15冊目	著者		
1年生	16. 16冊目	著者		
1年生	17. 17冊目	著者		
1年生	18. 18冊目	著者		
1年生	19. 19冊目	著者		
1年生	20. 20冊目	著者		

チェックカード

(2) 朝読書・すきま読書の推進

毎朝10分間読書活動を行う。ワークスペースに、国語の教科書に掲載されている「もっと読もう」の本を学年ごとに設置したり、学年に応じた図書を配架したりした。



もっと読もうコーナー

(3) お話レストラン

年に2回、教職員が読み聞かせを行う。(用務員さんにも参加していただいている。) 児童は、本の題名と本の紹介だけを頼りに、自分の聞きたいお話の場所へ行く。

だれに読んでもらうかわからないというドキドキ、ワクワク感があり、児童はとても楽しみにしている。



お話レストラン

(4) 図書ボランティア

朝読書の時間に、月に数回保護者や地域の読み聞かせボランティアに読んでいただく。ブラックシアターや大型絵本など、いつもとは違ったお話の聞き方や楽しみ方ができる。読み聞かせの進行は、児童が行い、読み終わった後には全員が感想を発表する。

(5) 図書委員会の活動

- ・表彰：一ヶ月ごとに読んだ冊数・ページ数を調べ表彰する。表彰された児童には、手作りのしおりと表彰状を渡す。
- ・昼の放送：図書室での様子やおすすめの本を紹介する。
- ・パズル：ブックカバーをパズルにして、学年ごとに作成する。
児童は、1冊借りるごとに1ピースもらいパズルを完成させていく。
- ・コーナー作り：新刊コーナーを作ったり、季節や行事に合わせたコーナーを作ったりする。また、委員会メンバーのおすすめの本コーナーもおすすめカードを添えて作る。
- ・ふくブックろ(本の福袋)：読書の幅を広げるために、普段は手に取る機会の少ない理科・科学系や読み物、伝記などの本を、福袋形式で全校児童に配付する。



お楽しみパズル



ふくブックろ

(6) 総合的な学習の時間・生活科での活用

本校には、広い畑があり、どの学年も野菜を育てている。植え方や育て方を調べる時に、『そだててあそぼうシリーズ(農文協)』、『やさいのずかん(絵本図鑑シリーズ8)』、『やさいのうえかたそだてかた(かいかたそだてかたずかん4)』、『こどもベスト図鑑13 やさいとくだもの』等の調べ学習コーナーを活用する。

3 成果と課題

○おすすめ20冊を推奨することで、主に学習漫画などを読んでいた児童が、物語などの読み物を読むようになった。

○教師の声かけや経験談、パズル、表彰などにより低学年を中心に読書量が増えた。

●高学年になると、休み時間も委員会などの仕事があり、なかなか読書量を増やすことができていない。ワークスペースなどの本をもっと充実させて、朝読書やすきま読書を増やすようにしたい。

●学校日より、学級通信等で、家庭での読書習慣の定着や読書量の増加をお願いする。

●学校司書がおらず、コーナー作りや本の入れ替えなど、委員会の力を借りることが多い。ボランティアを募集し、地域の方の力も借りながら、教科に対応したり、調べ学習に活用できるようにコーナー作りをしたり、本にさらに親しむことができる図書館づくりを目指したい。